

令和4度7月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和4年7月1日（金）午前11時00分～11時25分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ10社 14名

会見内容

1. 話題提供（2項目）

1. 友好園・台北市立動物園タンチョウ「ビッグ」と「キカ」ひな一羽の誕生について

- 釧路市動物園と友好園の関係にあります台北市立動物園で、タンチョウの「ビッグ」と「キカ」の間にヒナが誕生したことについて、報告いたします。
なお、台北市立動物園でも本日記者発表する予定であり、同時発表ということになります。
- 平成23（2011）年9月に、台湾と、日本そして北海道との「友好の証」として、また、学术交流とタンチョウの繁殖を目的として、釧路市動物園から台北市立動物園へ貸与した2羽のタンチョウである、オスの「ビッグ」とメスの「キカ」の間に、今年の6月19日に、初めての待望のヒナ1羽が誕生いたしました。
- 2羽のタンチョウが台湾に渡り、（ヒナが誕生するまで）11年という時間が経ち、あわせて今年はタンチョウが特別天然記念物に指定され70周年を迎える記念すべき年に、ヒナが誕生したことを、大変嬉しく思っております。
- 台北市立動物園は、「ビッグ」と「キカ」のために、園の中心に位置する場所に、新しいタンチョウ舎を完成させ、台湾の暑さ対策のために、スプリンクラーを設置いたしました。
- 当時のタンチョウ舎完成セレモニーには、私や釧路市議会議長、釧路市議会日台友好促進議員連盟の方々も一緒に参加したところであり、台湾の方々も2羽のタンチョウをととても大切にされていると実感いたしました。
- 今回のヒナの誕生を祝して、釧路市動物園内ではレストハウスにブースを設けて、2羽とヒナの映像や写真を7月2日（土曜日）から展示し、今後の取り組みについては、台北市立動物園と台北市と相談して進めてまいります。
- 釧路市と台湾の友好の証である「ビッグ」と「キカ」の間に生まれたヒナが健やかに育つように、しっかりとした協力体制をとってまいります。
- 今後どのように盛り上げていくかは、相談して進めてまいります。
まずは、第一報として、ご紹介させていただきました。

2. 生活困窮者食料等支援事業について

- 続いて、「生活困窮者食料等支援事業」についてです。
- コロナ禍において、原油価格や物価高騰の影響を受けている生活困窮世帯に対して、

食料や生活用品などをお送りし、経済的な負担を軽減するとともに、支援の必要がある世帯に対しては、適切な福祉専門機関へつなぐ取り組みを行う事業であります。

- 対象となる世帯は、本年6月1日の基準日において、釧路市に住民登録されており、令和4年度の市民税が「均等割」のみ課税されている世帯となり、世帯数は約4千世帯を見込んでおります。
- 支援内容としましては、お米やトイレトペーパーなど、ひと月当たり6,000円相当の支援品をセットにした、「くしろスマイルFOOD(フード)便」を、3か月連続でお送りいたします。
- 品物と一緒に、福祉の様々な相談先を紹介したパンフレットや、「世帯の困りごとに関するアンケート」をお送りし、それぞれの課題に応じて、専門機関につなぐ取り組みを行ってまいります。
- 発送時期は、7月中旬に対象世帯に対して事前のお知らせをお送りした上で、7月下旬をめどに最初の支援品の発送を行い、翌月、翌々月も同様に、送付いたします。

3. 「釧路市がめざす学校のすがた基本計画」に関する地域懇談会の開催について

- 「釧路市がめざす学校のすがた基本計画」に関する地域懇談会の開催についてです。このことは、釧路市議会6月定例会の中でも、お話しさせていただきました。
- 釧路市の子供達に最適な教育環境を構築するために、教育委員会では、小中一貫教育を推進し、施設一体型の義務教育学校を設置する方向性のもと、具体的な学校再編の年次案などを掲載した「釧路市がめざす学校のすがた基本計画（たたき台）」を作成し、議論いただいたところです。
- 今後、この基本計画（たたき台）の内容を、市内14か所にて地域懇談会を開催し、保護者や地域住民の皆様にも、この詳細を説明していきながら、そこでいただく様々なご意見を踏まえ、基本計画の策定に向けて取り組んでまいります。
- 地域懇談会は、7月4日（月曜日）の興津小学校から、7月28日（木曜日）の青陵中学校まで、市内14か所で毎回午後6時から開催いたします。なお参加にあたり事前予約は不要です。

4. 「くしろ男女いきいき参画表彰」候補者の推薦募集について

- 「くしろ男女いきいき参画表彰」候補者の推薦募集についてです。
- 男女平等参画社会の実現への機運を高めることを目的に、「女性の活躍の促進」、「子育てしやすい環境の充実」、「女性のちからを活用した地域活性化」など、男女平等参画の推進にかかる活動に取り組む個人・団体・グループと、それらの活動を支援している企業・団体・グループを表彰しております。

- 第7回目となる今年度の推薦募集期間は、7月1日（金曜日）から8月1日（月曜日）までとなっており、募集のチラシや推薦書の様式は、市ホームページで公開しているほか、チラシは釧路市男女平等参画センター、市役所、各支所、各コミュニティ施設などで配布していますので、詳細はチラシでご確認ください。
- どなたでも推薦することができますので、男女平等参画を推進する活動で活躍する方々を、ご推薦くださいますよう、お願いいたします。

2. 質疑要旨

（質問）

- ・水産商社ニチモウの協力により、ギンザケの養殖試験を実施することについて、市長の受け止めと、今後の期待についてお聞かせください。

（市長）

- ・私たちの地域の資源を活用して、ギンザケの養殖を進めていくという話をニチモウ株式会社よりいただき、大変期待をしているところです。他の地域の海水温が上昇する中、釧路地域ならば生育に適した水温で、魚の身も引き締まるという話もあり、釧路市養殖事業調査研究協議会も一体となって、しっかりと進めていきたいと考えております。また、他のジャンルにおいても釧路の特長やフィールドを活用した事業や取り組みを進めていくためにも、今回のギンザケ養殖の件を成功事例にしたいと考えております。

（質問）

- ・1年あたりの、将来的な出荷目標を数値で教えてください。

（水産統括監）

- ・今回の試験養殖に投入する幼魚は5千匹です。

（市長）

- ・事業が順調に成長していくことを確信して、今後のステップアップを期待します。

（質問）

- ・釧路市養殖事業調査研究協議会として、他の魚種も検討しているのでしょうか。

（市長）

- ・そのように考えております。釧路市養殖事業調査研究協議会という体制が釧路にあることで、事業者から様々な相談を受けることができ、今回のニチモウ株式会社からいただきました養殖事業の件も速やかに協議し進めることができました。この体制により、釧路の可能性を模索しチャンスを広げることにつながります。

（質問）

- ・先月6月8日に、釧路市内に生後4か月のお子さんが放置され亡くなった事件がありました。このことに対しての市長の受け止めと、市としての対応が十分だったのか、他に何かできたことがあれば、教えてください。
- ・また、半日以上お子さんを放置したということで一種のネグレクトかとは思いますが

が、再発防止のため、市が検討していることがあれば教えてください。

(市長)

- ・ 尊い命が亡くなったという事実を重く受け止めます。何が悪かったのかを整理する必要があるとは思いますが、生後4か月のお子さんを半日以上も放置し外出できないという感覚が常識と思いますが、このようなことが今や常識ではなくなったのか、という思いがあります。
- ・ 支援制度の仕組みの中で対応するケースも勿論ありますが、常識的ではない事件に対し、報道等もあわせて社会への問題提起することも重要ではないかと考えております。
- ・ 以前、道外他都市の教育委員会の報告にて、「給食費を払っているのに、なぜ給食の時間に、うちの子どもに「いただきます」「ごちそうさま」を言わせるのか」という親から教師へのクレームがあるということを知った際、私は、この話を公表すべきと思いました。給食費の問題ではなく、学校教育の現場で食事の前後に挨拶し礼儀を学ぶことは常識であり、そのように考えないことが非常識であることを、改めて広く社会に伝えるべきと考えたからです。
- ・ このような非常識なケースを公表することで、各々の考え方に気づきが生れます。問題を見えない状況にはせず、今回の事件のように子どもを長時間にわたり放置することは非常識であると言わなければなりません。そのうえで、支援制度の仕組みの中で情報を集めながら現場で対応していく、その両方を進めていく必要があると考えています。

(質問)

- ・ その後、市では具体的に考えていることはありますか。

(市長)

- ・ やはり、生後4か月の子を長時間放置することは非常識であると言っていかなければなりません。次に、制度の仕組みの中で対応できるのかという問題はありますが、まずは制度の中で、しっかりした対応を現場で行ってまいります。
- ・ 今回の件は、10代の母親の移住元である札幌市から釧路市に、問題は起こってはいないが若いという点でサポートが必要という連絡があり、実際に釧路市も母親を訪問していましたが、異常を発見することができませんでした。
- ・ 制度の仕組みの中で市は支援を行ってまいりましたが、今回の事件は制度の仕組みでは防ぎきれなかったと考えております。

(質問)

- ・ 今回、市の対応としては、仕組みの中で、やることはやったという見解なのでしょうか。

(市長)

- ・ 行政として対応が、十分だったか不足していたのか、行政が親の行為に対する良し悪しの判断が適切だったかという問題よりも、命が亡くなったという問題と、親が子どもを半日以上放置して外出していたという事実がそこにあります。
- ・ 支援が必要なところに、行政の支援制度では対応できなかった点も問題かと思いますが、生後4か月の子を半日以上放置して親が外出する行為自体が、問題と思っております。

- ・行政の制度の中で対応できなければならないという考え方も当然あるかとは思いますが、制度の中では対応できないケースもあるということも認識しながら、しっかり進めていくことも必要と思っております。